

# 令和7年度 赤穂中学校区小中連携教育 活動記録

## 1 令和7年度 小中連携教育研究部会具体的実践

『本年度の研究テーマ』

- 小・中学校相互の授業研究を通して、子どもたちの実態の相互理解につとめる。
- 国語科の系統性を把握し、指導の継続性を求めて指導の改善を図る。小・中学校9年間を見通した指導の相互理解につとめる。

## 2 赤穂中学校区の活動報告

### 赤穂中学校

○実施日：令和7年6月3日(火)

○単 元：3年 国語科「挨拶—原爆の写真によせて」(詩：石垣りん)

○事後協議

- ・自分の考えや思いを発表したり書いたりすることに対して、苦手意識をもつ生徒が多いため、ワークシートを準備したり、班学習を取り入れたりしながら、全員が授業に参加できるよう工夫した。書き込みや班での発表は頑張っていた。
- ・リアルタイムでの意見の共有手段として、Google Form を活用した。共有ツールとして、他にも Canva・figjam・オリソク・吹き出しくん等々が利用できる。ICT のメリット・デメリットを考慮しつつ、児童生徒の言語能力の育成を図っていく方法を模索していかなければならない。
- ・自分の意見をもつことや、人の意見を知ることとはとても大切。共有し、深めていくことができれば対話的な学習になっていくと思うが、なかなか深めるところまで至っていないのが現状である。
- ・先生と生徒の1対1のやりとりではなく、生徒同士の中で意見交流ができ、深められるのが理想。同じような意見でも、自分の言葉で伝えることが大切。小学校で身につけた発表の仕方のようなもので、中学校でも使えるものは引き続き使っていけるとよい。
- ・生徒と誠実に対峙していく姿勢が見られてよかった。
- ・生徒にとっては想像の域を出ない話なので、具現化できるもの(数字等)に着目させるのも一つの方法。
- ・戦争を扱った作品であるが、道徳ではなく国語なので、一つ一つの言葉にとことんこだわって読みを深めさせたい。



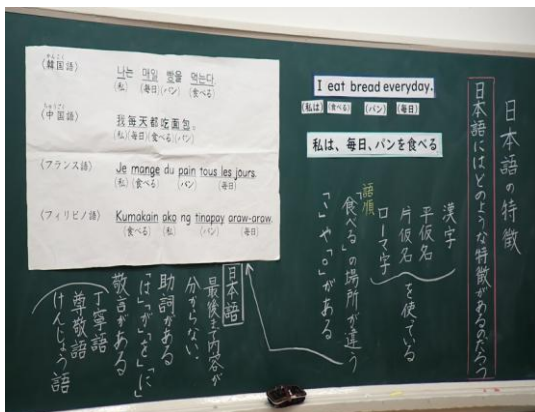
## 赤穂小学校

○実施日：令和8年2月6日（金）

○単 元：6年 国語科「日本語の特徴」

○事後協議

- ・他の言語と比べることで日本語特有の特徴に気付くことができていた。
- ・表記や語順等視覚的な特徴だけでなく、文末まで聞かないと話が分からないや話するときには主語が省かれても内容が通じる等、普段の生活や経験と結びつけて特徴を考えているのが良かった。
- ・友達の発言につないで意見を伝えたり友達の発言を聞いて考えを広げたりと、みんなで考え学習している姿が見られた。
- ・班で意見を交流することで全体の話し合いに自信をもって発言できていた。
- ・句点や読点、助詞等の用語は中学校でも使っていくので、しっかり抑えていくことが大事。
- ・授業の中で「話す・聞く」ことがしっかりと行えるためにも授業規律は重要である。
- ・漢字の定着を確実にを行うためにも、小学校から繰り返し練習を行って欲しい。小学校では、細かい所まで丁寧な練習を行っているので中学校でも続けていけるようにしたい。



### 3 まとめ

どの教科においても小中の縦のつながりを意識した授業作りをおこなっていくことが児童・生徒の学びへの意識を高め、主体的な学習へとなるためにも重要である。特に国語科は、「漢字や語彙力等の言葉」「話す・聞く」「書く」「読む」の学習を行い、他教科においても重要な力を育てる教科である。小学校で学んだことが中学校でさらに高まることで、児童が「言葉の素晴らしさに気付き、言葉を使って表現したい」と感じ、国語の良さに気付くことができると考える。

そのためにも小中の連携を授業の連携だけでなく、児童・生徒の学びや生活の実態、各校の取り組み等、多岐にわたる情報共有を行うことで関わりを深め、共に目指す児童・生徒像を明確にしながら研究を重ねていきたい。